

へびつかい座、へび座



近くのさそり座や夏の大三角に比べると暗い星が多い星座ですが、条件がよければ男性の頭にあたる α 星(ラス・アルハゲ)をスタートとして、将棋駒のような形を結ぶことができます。星座絵は、男性が大きなへびをつかんでいる様子で描かれます。へびつかいと言っても「レッドスネーク カモン」と笛を吹いてへびをあやつる人ではありません。この男性はアスクレピオスという人物です。本紙5月号でカラス座の紹介をしました。カラスの告げ口によってアポロンがあやまって殺してしまったのがコロニス。そのコロニスの子どもがアスクレピオスです。アスクレピオスは、幼いころに馬人ケイローン(いて座)に預けられました。ケイローンは、ギリシャ神話の英雄たちに教育をほどこした賢人で乱暴者が多いケンタウロス族の仲間たちとは一味違った馬人です。ケイローンは、アスクレピオスにあらゆる知識を授けました。やがてアスクレピオスは

すばらしい名医に育ち、様々なけがや病気を治療しました。ところがあまりの熱心さで、とうとう死んだ人まで生き返らせはじめってしまったのです。これに困ったのは、冥界の神プルトーンです。死者がやってこなくなってしまうからです。プルトーンは、大神ゼウスに「黄泉の国に死人が来なくなるとは、世の中の秩序が乱れる」と抗議をしました。確かにこのままではいけないと考えたゼウスは雷電の矢をアスクレピオスに投げつけて殺してしまいました。しかし、彼の医者としての業績を評価したゼウスは、アスクレピオスを星座にしたということです。へび座はアスクレピオスとセットで描かれていたものです。アスクレピオスはへびの行動を観察して薬草の効き目を知ったという伝説があります。また、脱皮するへびは再生や健康の象徴であったと言われていいます。へびつかい座は、へびを掴んでいるアスクレピオス。へび座は、彼がつかんでいるへびです。へび座は星座の中で唯一、頭部と尾部の二つに分かれた星座です。

(参考図書：全天星座百科：藤井旭著：河出書房新社 / 星座神話ガイドブック：沼澤茂美、脇屋奈々代：誠文堂新光社)

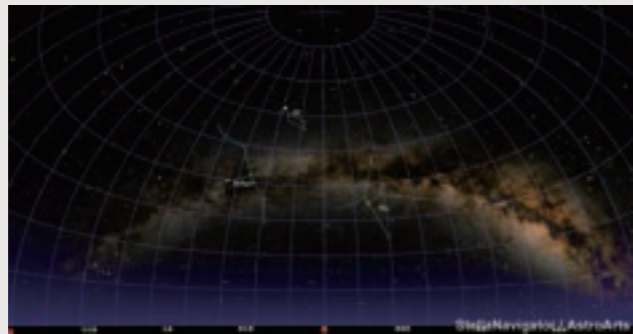
今月の見どころ星どころ

七夕

文・浜松市天文台
喜澤 俊輔



7月7日は七夕です。織り姫と彦星が天の川の両岸で・・・というお話は有名ですね。登場人物となっている織り姫はベガ(こと座)とされ、彦星はアルタイル(わし座)とされています。「ベガ」、「アルタイル」は恒星ついた名前です。天の川の両岸に離れて暮らす織姫と彦星ですから、この2つの星の間を天の川が流れていることになります。七夕の由来は中国にあります。その後、日本の行事と結びついて「たなばた」という日本独自の言葉になったとされています。七夕というのは本来、太陰太陽暦(旧暦)の7月7日に行われていた行事です。今年は8月10日(土)が「七夕」にあたる日です。国立天文台では2001年から「伝統的七夕」と呼んでいます。もちろん、現代のカレンダーで七夕を楽しむ方はたくさんいらっしゃいます。例年、まだ梅雨が明けていないため、天気がよくないかもしれません。7月7日21時の夏の大三角(ベガ・アルタイル・デネブ)の位置を示します。まだ空を見上げるような位置ではありませんね。ぜひ、8月の伝統的七夕の日も空を見上げてみてください。このころになると、同じ21時でもこと座のベガは天頂(真上)付近に見られます。



星空クイズ

七夕の織り姫星は、こと座のベガ、彦星はわし座のアルタイルです。この2つの星は比較的地球から近いところにある星です。わし座のアルタイルまでの距離は、約17光年です。ではベガは、地球からどのくらいの距離にあるのでしょうか。

- A 約 20 光年
- B 約 25 光年
- C 約 30 光年

答えは中面へ

星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

2024年7月

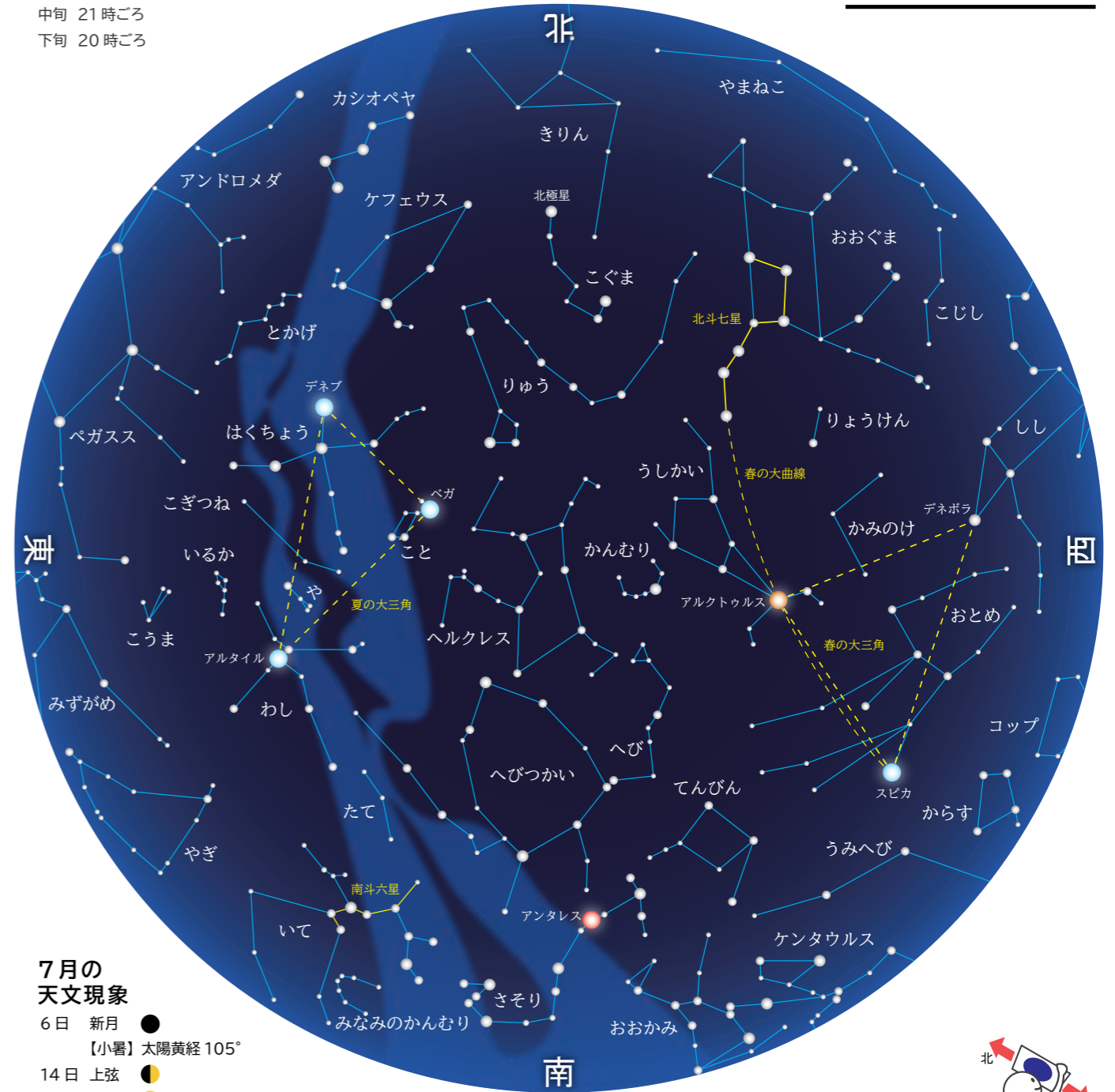
月上旬 22時ごろ

月中旬 21時ごろ

月下旬 20時ごろ

2024

7



7月の天文現象

- 6日 新月 ●
- 【小暑】太陽黄経105°
- 14日 上弦 ●
- 21日 満月 ●
- 22日 【大暑】太陽黄経120°
- 水星が東方最大離角
- 28日 下弦 ●

上の星図は、空にかざして実際の方角と合わせてご覧ください。

